



## 2/16「京都議定書」発効 「小京都」飯田では

1997年に「京都議定書」が採択されて7年、2月16日よいよ発効しました。先進締結国が温室効果ガスの削減約束の具体的な行動にむけて踏み出した歴史的な第1歩です。

「京都議定書」は1990年を基準年として2008年から2012年の5年間に法的拘束力のある数値約束を各国ごとに設定。先進国全体で温室効果ガスを少なくとも5%削減しようとするもの。55か国以上の締結に対し140か国、排出量の55%以上に対し61.6%という2つの条件を満たし90日後に発効されました。

研究会では2月16日の京都議定書発効の周知徹底を図っています。通信100をもとにした啓発資料を28の事業所ごとに朝礼等で読み合わせをするという取り組みです。

研究会全体での大きな集会ではなく事業所が取り組みやすい方法での徹底、現在その実施者数を集計中です。どれだけの...

## 2/16 東京で設立された 「フォーラム気候の危機」



「京都議定書」発効の記念行事は国立京都国際会館で世界に合わせ2月16日の夕刻から行われました。国連本部があるニューヨーク時間で16日午前0時が日本時間で午後2時。東京では設立された「フォーラム気候の危機」で250人がカウントダウン。

飯田市に縁の深い環境自治体会議の須田春海さん、加藤三郎さん、三橋規宏さんらが呼びかけたものです。

発足シンポジウムは各地からの現状報告プラス研究者の分析で進められました。「具体的な行動提起を」との会場からの意見もありましたが気候変動の共通の認識からスタートなのでしょうか。このゆるやかなフォーラムに先ず参加し連携することから...「フォーラム気候の危機」趣意書

<http://www.jccca.org/about/newsrelease/2005/rel00017.pdf>

## 所沢市でも立ち上げむけ 企業とのISOネットワーク



京都議定書発効の前日、埼玉県所沢市役所で「事業活動から考える地球環境セミナー」が開かれました。所沢市と所沢商工会議所が主催したセミナーで参加者は26の企業から36人、飯能市や入間市などの自治体職員を含め50人余。ISO14001認証取得の普及、「南信州いむす21」の構築・支援などの研究会のこれまでの取り組みを事例発表しました。



斎藤所沢市長から。「あなたが主役のまちづくり」という一貫した政治姿勢のもと、常に市民や事業者の目線に立ち「ふるさと所沢」のまちづくりを行ってきた。ISO14001認証取得(2000年2月)や全国に誇れる「学校版環境ISO」「キッズISO」の推進、幼稚園児や保育園児を対象とした大型紙芝居の作成など、地球環境にやさしい環境率先行動を展開してきた。商工会議所と連携しISO14001の集団認証取得が10事業所になった。こうした事業所を中心に「地球にやさしいネットワーク」を構築し、問題の共有化や情報交換を行い、地域の環境保全活動に取り組んでいきたい。



## 日中韓環境情報メールマガジン 「伝所鳩」も100を超え



このような絵とともに届けられる「伝所鳩」は「東アジア環境情報発信所」がメール発信する日中韓3言語での環境情報です。私たちの通信と同じく先日100号を迎えました。

研究会の活動もアジアに向け発信してくれました。中国・韓国での環境への取り組みが詳しく紹介されている、このネットワークにも...

<http://www.enviroasia.info/>

## (財)地球・人間環境フォーラム 「グローバルネット」では



月刊「グローバルネット」は(財)地球・人間環境フォーラムが発行するの環境情報誌。2005年1月号から「持続可能な地域をつくる“元気力”環境自治体マンの本音エッセー」という楽しい連載が始まっています。

<http://www.shonan.ne.jp/~gef20/gef/>

日本各地で持続可能な社会づくりに組織や地域の中で奮闘している自治体職員の元気は本物か?他の地域でも有効か?他へのヒントとなりうるか?共通項は?そんな元気を発掘し、発信し、共有し、それを高めるものとなることを期待したいものです。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

[p05300@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tamagawa-seiki.co.jp)

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

[kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp](mailto:kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp)



## 2/24 岩手県東和町で設立 「環境パートナーシップとうわ」

岩手県東和町(人口1万人余)で「環境パートナーシップとうわ」が2月24日設立され、不思議な縁で遠い地に参加する機会をいただきました。

昨年3月策定された環境基本計画「とうわめぐみプラン」にかかわったのが「環境にやさしい町づくり推進協議会」。東和町にとっての環境元年2000年から策定までおよそ3年、14回の会議。この「深い思い」が計画実施に自ら参画し検証するパートナーシップ設立につながりました。



雪の中、設立総会に集まった中心メンバー20団体・組織の「思い」にはやはり本物を感じました。事務局の行政側の努力だけで決してできる組織ではありません。幼い子を背負っての女性の参加もありました。これまでの経過を踏まえ会則・役員も決まりパートナーシップは次の段階へと確実に進みました。気負って一気に多くをしようとせず楽しめるイベントなど無理なく始めて仲間と活動を広げていって欲しいものです。

## 飯田市でも設立の準備中 本格的な環境パートナーシップ

飯田市でも温室効果ガス10%削減をめざす「新エネルギー省エネルギー地域計画」の実行が急がれます。そのための本格的なパートナーシップ設立の準備会がこれまで3回開かれています。3月に現地で学ぶ「エコネット津山」とともに「とうわ」からも学ぶことが多いでしょう。実際動き出すと課題も出てくるでしょう。東和と飯田、パートナーシップを通じた交流ができるといいですね。



## 4年の環境 ISO の運用 東和町の職員環境研修会



2月24日夕方からの職員研修で研究会との連携における飯田市役所の環境マネジメントをはじめとする環境改善の取り組みを説明しました。

東和町はISO14001を2001年2月に認証取得、昨年2月に更新審査を受け運用を続けています。この日、花巻市等4自治体の合併が議決され来年1月には10万の「花巻市」に...

## まほろばの郷 東和町 宮沢賢治の花巻市



(泣き相撲大会の「熊野神社 毘沙門堂」)

祈りと信仰の地、四方を小高い山々に囲まれたおだやかな盆地、東和町。縄文や平安時代など遺跡など文化遺産豊かな町です。環境省の「平成のまほろばのまちづくり」を進める飯田市、本当の「まほろばの郷」東和町、これも不思議な縁といえます。

合併する花巻市は宮沢賢治生誕の地。詩人だけでなく地質学者として「イギリス海岸」と呼んだ地から「バタグルミ」の化石も採取しています。



(「バタグルミ」のペーパーウェイト)

「宮沢賢治記念館」で次のことばを知りました。「詩人は苦痛をも享楽する。永久の未完成これ完成である。作品は一度完成されても、また全面的に手直しされ新しい完成へと動きはじめる。」PDCA サイクル、環境マネジメントシステムの継続的改善への連想は少々こじつけでしょうか。



(宮沢賢治記念館の近く賢治童話村)

## 元気なまちには元気な職員

研修会を主催した総務課と町民生活課の皆さんと終了後、交流会。誰もが自分の意見をしっかり持っている元気な職員でした。刺激でした。

大きな自治体への合併という不安もあるでしょう。しかし、これまで環境マネジメントシステムに取り組んできたことに自信を持ってリードすることを期待しています。合併後も「環境パートナーシップとうわ」はきっと大きな力になることでしょう。



岩手県東和町と長野県飯田市。この2つの自治体の不思議なつながりには北海道の帯広市と岩手県の葛巻町、そこでのイベントも関係があります。そして、環境自治体会議や(財)地球・人間環境フォーラムなどの団体も大きくからんでいます。飯田市の特産である「水引」、そしてめざす「水引型地域運営」。「水引型地域運営」とは人と人を結び心と心を結び、人と人の「縁」を大事にしていくものだとして東和町で強く感じました。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局  
p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



## 2/28 22事業所が参加 研究会事業所代表者全体会



研究会の事業所代表者全体会が市役所の職員会館で2月28日に開かれました。昨年5月10日以来、約10か月ぶりの事業所代表者による会議は15:00から内容の濃い90分間。研究会28事業所のうち代表者の参加は15事業所、全体では22事業所38人の参加がありました。

広い会場の空気がなく1つの机に3人がけという狭い会場での設営となりました。それが、それぞれの距離を縮め研究会のまとまりを再確認する会議となりました。

## 日本のめざす大きな目標に 地方からいささかなりとも発信を



会の進行をつとめる研究会の萩本範文代表(多摩川精機株社長)からあいさつ。京都議定書を決めたCOP3の1か月前といういいタイミングに6事業所で研究会は発足。環境をテーマに集まった研究会は会費なし、活動費なしのまったくのボランティアで、それが功を奏して今日まで続いている。これまでそれぞれの事業所には事情がありメンバーも代表者も替わってきた。そして京都議定書が発効するにいたる7年間に28事業所の大きな研究会に育ってきた。

温暖化防止という日本のこれからの大きな目標に、この地域に根ざす主たる事業所が集い、いささかなりとも発信していけたらと願う。

## 経済自立化と環境ISO 浸透 産業と行政 車の両輪として

牧野光朗飯田市長から事業所代表者交替のあいさつ。これまでの「環境文化都市」のいい面を引き継ぎながら、いかに「文化経済自立都市」を実現させるか。市長に就任して4か月常にさまざまな局面で頭を悩ませている。研究会の地域ぐるみでの環境ISOの取り組みと経済の自立化は表裏一体。研究会事業所の皆さんから知恵を借りながら産業と行政が車の両輪として地域の発展をめざしたい。



## 「南信州 いむす 21」審査 当面 要求事項の迫りを

地域独自の環境マネジメントシステム「南信州 いむす 21」のレベルアップについては当面、初回審査と継続審査の審査項目にそれぞれ何点かを追加し対応することにしました。また多摩川精機株のグリーン調達に伴う「南信州 いむす 21」取組事業所の増への対応は、28のうち25あるISO14001審査登録済みの事業所が2人(事業所)1組で順番に支援・審査に当たることになりました。

現状の基礎レベルに2つの上位レベルの創設をこれまでも検討してきました。動き出した環境省の「エコアクション 21 認証・登録制度」やISO14001新規格での「自己宣言」レベルへの具体的対応が急がれます。そのためにもこの地で研究会主催の研修や登録を実施して内部監査員や審査員の資質向上を図る必要があります。地域全体のニーズを見ながら。

前回代表者会からの経過報告の主なもの。  
5/26～28 環境自治体会議 いだ会議  
7/5 浜岡原子力発電所見学 7/17～18 信州環境フェア 8/26 エコタウン飯田で循環社会を考える 9/27 実務者会 11/6～7 生活と環境まつり 12/18 ISO14001規格改訂セミナー ぐるみ通信 61～102

## 「京都議定書発効」周知 28事業所で5,372人

2月16日京都議定書が発効にともなう周知徹底を研究会で取り組みました。ぐるみ通信 100の萩本代表からのメッセージをコンパクトにしたものをそれぞれの事業所で読み合わせてもらうというものです。

**「京都議定書」発効**

1997年12月に温暖化防止京都議定書(COP3)が採択され、二酸化炭素など温室効果ガスの削減を義務づける議定書が発効されました。

日本は、「2008年～2012年の間に、温室効果ガスを1990年比で6%削減(現状の約15%削減)を目標にしました。そして、その議定書が、いよいよ本日(2月16日)、発効期間を経て発効することになり、地球温暖化防止への行動の節目となる日を迎えました。

この議定書の定めは、人々の健康や豊かさの追求が地球環境の破壊につながりかねないという極めて厄介なものです。これからの経済成長は、地球環境改善と同時に進めなければなりません。

地球の温暖化は確実に進んでおり、それは近年の異常気象と決して無関係ではありません。

人間は一瞬のうちに起きる大地震や津波被害には強く反応しても、毎日少しずつ起きてくる被害、環境破壊には反応しにくいものです。しかし、現在、私たちの周りでも温暖化現象、異常気象が起き、生命を脅かすような状態となっているのです。

私たちにできることは、「小さなことでも改善・実行する」「少しの発信をして地球温暖化の先を優先する」ことです。

私たちは、人類史上初めての私生活にあることを重く受け止めなければなりません。これからは、温暖化防止に向けて、「議論」から「具体的な行動」に移しましょう。

28事業所で実施した人数の報告合計は5,372人。朝礼などの集会で伝達したり、読み合わせしたり回覧や掲示したり。研究会28事業所7,000人と言っていますが、従業員がこの話題を家に持ち帰ることの効果が研究会のめざす草の根運動です。

温暖化防止が机上や知識だけの問題でなく日頃の活動の中に活かしていけたら。そしてノーマイカーデーなど研究会全体で取り組めることにつながれば、今回の実験の5,372人という実績はそんな大きな可能性を教えてください。まさしく「点」から「面」への「ぐるみ運動」そのものです。



【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局  
[p05300@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tamagawa-seiki.co.jp)  
小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局  
[kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp](mailto:kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp)



## 3/17南信州 いむす 21 登録 これで登録49事業所に

南信州広域連合(1市3町14村)は3月17日の会議に引き続き地域独自の環境マネジメントシステム「南信州 いむす 21」の交付式を行いました。牧野光朗連合長(飯田市長)から4事業所の代表に登録証が手渡されました。2001年10月にスタートした「南信州 いむす 21」の登録証交付も不定期に今回で6回目。登録事業所は49事業所になりました。



研究会は事業所からの申請にもつき現地での登録審査に当たり登録推薦しました。それぞれの事業所は徹底した取り組みの一方でデータの把握や構成員への周知徹底などまだまだ課題もあります。今回の登録を大きなきっかけにして、つぎのステップに取り組みが進むことを期待しています。



登録証が交付された4事業所はつぎのとおりです。松川町役場竜口文昭町長・73人) 飯田市中央通り3丁目商栄会「GARDEN3」(近藤正隆会長・24店舗) 中央通り4丁目商栄会「GARDEN4」(安藤信男会長・51店舗) (株)タカモリ(63人)。



2003年10月に取組宣言したJRIの駅前からの2つの商栄会「GARDEN3」「GARDEN4」は自分たちのまちから出る段ボール・ペットボトル・PPバンド・割り箸などを「エコハウス」に各店が持ち寄りリサイクルにまわしています。来年度はESCO事業として省エネへの挑戦も...

## 岡山県津山市「くるくる」 「エコネットワーク津山」視察交流

飯田市でも市民、環境NPO、事業所、行政などが環境パートナーシップ設立の準備を進めています。研究会など準備会のメンバー13人が3月15日岡山県津山市(人口11万人)に「エコネットワーク津山」を訪ねました。リユースプラザ「くるくる」を視察し、津山市役所でネットワークの皆さんと意見交換を行いました。

「くるくる」は津山市が設置し「エコネットワーク津山」が運営しているリユースプラザ。97年8月に始めた家庭ごみの指定袋による有料化の収益金を充てています。一定のルールで積み立てられた「エコプラザ基金」は2億円を超えているそうです。



「くるくる」では家庭で不用になったまだ使えるものを提供していただき、展示し希望者に無料で提供したり、即売や抽選により販売しています。抽選品は最高5000円としてあるものの、きれいなベッドも机も棚も3000円程度とか。2004年度の提供品売上げ収入が189万円。そのほか「くるくる」では古紙などの資源回収やパネル展示や講座など環境啓発の機能も持っています。



津山市の環境基本条例(2002年12月)、環境基本計画(2003年3月)は全員公募による委員40人が2年間で141回の会合で作上げたもの。「エコネットワーク津山」はリユースプラザ「くるくる」の運営に関わってきた「エコネットワーク津山」と環境基本計画策定の「環境職人」が2003年5月にスタートさせた環境基本計画推進組織です。現在会員は約110人、団体、サポーターは約60人、団体。毎月第1月曜日19~21時頃の定例会には18人ほどのキーマンの半数が集まるそうです。松田さんという事務局には恵まれています。少々守備範囲が広く企業とのつながりが弱いなどの課題も...

## 京都市京エコロジーセンター 「京アジェンダ21フォーラム」も



翌3月16日は津山市から京都市へ移動し「京エコロジーセンター」と「京アジェンダ21フォーラム」を視察し組織や運営の説明を受けました。



## 飯田らしいパートナーシップ 地域協議会設立に向けて

それぞれの地域には、その土地ならではのパートナーシップができる背景や土壌があります。すでに個別な課題について活動している団体や組織があります。では何に取り組むためにそれらが協働してパートナーシップを作るのか。温暖化防止に絞るのか、環境全般なのか、さらに広く市民活動全般なのか。いずれにしても先進地から学びながらも「飯田らしい」パートナーシップ組織を作りたいものです。無理のない...

## 上村・南信農村と合併 10/1新「飯田市」が誕生

飯田市と上村・南信農村の合併協定調印が行われ10月1日に新「飯田市」が発足することになりました。

合併後の飯田市は面積658.76k㎡(現在325.35k㎡)、人口は10万9千人弱(現在10万6千人弱)になります。面積が倍になるだけでなく南アルプスの豊かな自然や「霜月まつり」といった全国に誇りうる伝統文化を受け継ぐこととなります。1市3町14村からなる南信州地域での生き残りとしての約17万人の1市建設への挑戦。その第1章はさまざまな議論と模索の結果、新飯田市のほかに来年1月の2村による合併という形でのスタートになりました。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局  
[p05300@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tamagawa-seiki.co.jp)  
小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局  
[kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp](mailto:kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp)



## 保育園や公民館 37 か所に 太陽光市民共同発電



飯田市内の保育園・幼稚園・児童センター公民館や動物園など 37 施設の屋根に新たに太陽光発電設備が取り付けられました。全国 11 自治体の環境省の「環境と経済の好循環のまちモデル事業」(「平成のまほろば事業」)として費用の一部を国からの補助を受けて行ったものです。

事業は民間の会社により行われ補助金以外の事業費は市民からの出資でまかなわれることになります。市民(出資)・民間(事業主体)・行政によるパートナーシップ事業という新しい試みがいまここで展開しています。



「環境と経済の好循環」とは環境を良くすることが経済を発展させ、経済を活性化することにより環境も良くなるというもの。地域発の創意工夫と幅広い主体の参加により実現することを目的としています。

## 新エネの太陽光発電所 それは省エネ節電所



飯田市では地球温暖化防止のため温室効果ガス 10%削減に取り組んでいます。新エネルギーで 5%、省エネルギーで 5%の温室効果ガス削減をめざしています。太陽光発電はまさしく新エネルギー、太陽光発電

装置設置をきっかけにエネルギーの大切さを学び、それにより省エネルギーに結びつけようとしています。

太陽光発電装置が屋根に乗った保育園の保護者の皆さんや公民館の役員の皆さんが参加して環境学習会が熱心に開かれています。これまでも融資に対する利子補給や設置補助など家庭用の太陽光発電の普及を進めてきた飯田市。現在の世帯の 2%ほどの家に設置され、これは全国トップクラス。それが市民共同発電につながっています。

## 「さんぼちゃん」も登場 太陽光発電の点灯式で



NPO のキャラクター「さんぼちゃん」が発電所の点灯式に登場し子どもに大人気です。おひさまとともに創る子供たちの未来、子どもたちが「さんぼちゃん」と節電を誓います。



太陽光市民共同発電所の事業主体は、NPO 法人南信州おひさま進歩がつくった「おひさま進歩エネルギー(有)」という会社。太陽光発電と商店街での ESCO という省エネルギー事業に取り組みます。市民風車で実績のある株自然エネルギー市民ファンドの支援も受けています。市民出資は 1 口 10 万円(A タイプ(利回り 2%))と 1 口 50 万円(同 3.3%)の B タイプ。ぜひ皆さんも資料をとりよせていただき、自然エネルギーづくりへの「市民出資」にご参加ください。

TEL:0265-56-3710 FAX:0265-56-3730

<http://www.ohisama-energy.co.jp/>



多くの人たちの連携により、この太陽光市民共同発電の事業が進められています。施設の関係者などの努力により行われている太陽光発電点灯式。環境の難しい知識も大事ですが、身近な節電といった省エネなど環境を意識した行動ができる人たちを増やしていきたいものです。3月26日(土)に飯田動物園で行われた点灯式、「ぼく太陽光発電だいすきだもん」、そんな子どもの発言に大人がびっくりさせられました。

## PDCA による継続的改善 小さなP から無理なく動かす

地域ぐるみ環境 ISO 研究会は ISO14001 や地域独自の「南信州 いむす 21」という環境マネジメントシステムの普及により地域の環境改善の輪を広げていこうとしています。この環境マネジメントシステムは PDCA サイクル、Plan(計画) - Do(実施) - Check(点検) - Act(見直し)を回しながらシステムを少しずつ確実によくしていこうとするものです。

何かを始めるときに一気に大きな成果を期待しがちですが成果が出るまでには時間がかかり成果が出ないことも多々あります。

研究会はそのほとんどを小さな P(計画)から不完全な P(計画)から始めてきました。やってみて問題があったらどんどん見直せばいい、何より先ず動き出させることが大切だと考えています。もちろん失敗は避けるべきですが計画に大きなエネルギーをかけるよりもまずは夢見て始めてみました。

97年11月に6事業所で始まった研究会は28事業所7000人に、2001年10月に運用を始めた「南信州 いむす 21」も取組事業所が200に登録事業所が49事業所に、2001年2月に配信を始めた「ぐるみ通信」も100号を超え何百人という人たちに届けられています。環境関係のネットワークはさまざまな賞への挑戦を通じて全国各地にとっても不思議な縁となり広がっています。



この地域の元気につなげること、そのため人材や技術や資金が地域に環流するだけでなく、それらを引き込むまでには地域の力をつけたいと願います。自然豊かな、そして研究会の挑戦はこれからも続きます。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

[p05300@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tamagawa-seiki.co.jp)

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

[kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp](mailto:kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp)



## スウェーデン&飯田、環境を語るティータイム

4月9日(土)午後、りんご庁舎で「スウェーデン&飯田、環境を語るティータイム」が行われました。

4月8日(金)から10日(日)まで、南信州観光公社が主催する、「南信州飯田エコツーリズム研修会」が、環境問題のコンサルタントや市民活動家、県議会「あおぞら」に所属する北山早苗、宮川速雄、林奉文氏を含め17人の参加者のもと開催されました。



北山早苗県議(右)

ティータイムはこの研修の一環で行われましたが、ツアー参加者の他、環境先進国スウェーデンの取り組みに関心のある市民の参加もありました。

ツアー参加者にとってこのティータイムは、千代のよこね田んぼ、ごんべえ邑、千代や伊賀良での農家民泊や、太陽光市民共同発電、環境産業公園の視察を受けたための会も兼ねたものでした。

## 持続可能なスウェーデン・ツアー

「持続可能なスウェーデン・ツアー」という研修があります。これは環境先進国と言われるスウェーデンの取り組みを広く世界に知ってもらうことで、この取り組みを世界へ広げていこうという試みです。

ツアーには、森林所有者や子どもに対する森林教育、環境認証制度 FSP、PEFZ、森の様々な価値(暖房熱源、建材の原材料、将来の車燃料の原材料、観光や手芸の資源として)といったプログラムが組まれています。

ティータイムには、このスウェーデン・ツアーを主催するエーサム社からバルボロ・カッラ氏が参加し、飯田のエコツーリズムとスウェーデンの取り組みを比べ

ながら交流を深める形となりました。バルボロ氏は飯田の他に沖縄、京都なども訪問し、日本版の「持続可能ツアー」プランづくりの下見も兼ねた参加です。



バルボロ・カッラ氏(右)

スウェーデン、ウーメオ市に本社を置くエーサム社は、持続可能な発展の分野で人材育成を行うことを目的とした企業です。

## 鍵は担い手づくり

バルボロ氏は、「持続的な発展の鍵は、取り組みを担う人づくりに尽きる」と語ってくれました。スウェーデンでは何よりも消費者や子どもたちへの啓発や教育を大事にしており、教育によって形成された国民一人ひとりの高い問題意識が、環境政策にも大きな影響を与えているということです。特に参政権を持つ18歳以上の若者たちの政治への参加が積極的で、10代の国会議員まで生まれ、議員の平均年齢も40代、若い人たちに未来を託す風土が定着しているそうです。日本の場合、教育による一人ひとりの意識づくりが大きな課題と感じました。

## ISOをネットワークで取得

また、エーサム社の業務のひとつに、アジェンダ21を広めるために国内のさまざまな地域でISO14001の取得を進める仕事があります。その中で中小企業が独自でISO14001を取得することの困難を、それぞれの会社をネットワークし共同で認証取得を進める取り組みも行っているそうです。あわせて自治体自身がISO14001を取得する取り組みも進めているそうですが、自治体の取り組みはまだ緒に就いたところのようで、飯田市の取り組みに随分関心を持たれていました。

スウェーデンの取り組みと地域ぐるみ環境ISO研究会の活動や考え方には重なるところも多く、研究会の活動は、国際的にも先進的な取り組みといえそうです。

## 飯田の取り組みに驚き

なお、3日間のツアーに参加した皆さんも、エーサム社のバルボロ氏も、訪問した各施設で出会った人たちの意識の高さに驚き、飯田で進められている取り組みを高く評価してくれました。飯田下伊那地方が、持続可能な日本ツアーの拠点として位置づけられることも大いに期待できます。



参加者によるグループワーク

「持続可能なスウェーデンツアー」に関するHP

<http://www.netjoy.ne.jp/~lena/kankyoguide.html>

\*\*\*\*\*

この地域の元気につなげること、そのため人材や技術や資金が地域に環流するだけでなく、それら呼び込むまでに地域の力をつけたいと願います。自然豊かな、そして研究会の挑戦はこれからも続きます。

研究会事務局のうち飯田市役所担当が小林敏昭から木下巨一(のりかず)に変わりました。ぐるみ通信、これからも継続して発行していきます。読者の皆さまもぜひ情報をお寄せください。多くの皆さまの参加で、多様な紙面作りをめざします。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

[p05300@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tamagawa-seiki.co.jp)

木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局

[ic1267@city.iida.nagano.jp](mailto:ic1267@city.iida.nagano.jp)



## 秋篠宮両妃殿下とのお会いも ~地球環境大賞受賞式に参加

4月14日(木)東京明治記念館を会場に、地球環境大賞の表彰式が行われました。昨年この研究会が優秀市民グループ賞を受賞したことから招待を受け、事業所代表として岡田宏(旭松食品本店総務部長)、小木曾博人(飯田市助役)両氏が参加しました。

特に秋篠宮両妃殿下との「お会い」では、直接



お言葉をかけていただく機会にも恵まれました。「今回、授賞式やレセプションでの交流を通じ、産業発展と地球環境保全のため、今私達の取り組んでいる活動がいかに重要か、そして全国的つながりを持って確実に広がっていることを大変心強く感じました(岡田宏氏談)。本年度の地球環境大賞を受賞した松下電工は、省エネ・長寿命照明の開発促進などの取り組みが認められての受賞です。環境改善に関わる最新の動向を生で感じることが、今後の研究会の活動により意味での刺激となります。また同じ志を持つ組織とネットワークを広げる有効な機会でもあり、次年度以降も

ぜひ参加していきたくものです。  
\*写真提供：フジサンケイ ビジネスアイ



## 初めての更新審査 南信州いむす 21

2002年に地域独自のEMSとして運用を開始した南信州いむす21が3年を経過し、初めての更新審査を行う時期となりました。対象は、最初に認証を受けたアジマ自動車学校(株)、井坪設備工業(有)、エコトピア飯田(株)の3社で、研究会の実務者メンバーが分担して審査に伺います。3社とも更新審査を希望しており、この地方独自のEMSの定着を実感しました。環境改善の活動が継続することに意義があります。広がりも継続、ともに大事な課題です。

## 初めての改正に対応 規格改正相談会

4月22日(金)午後1時30分から飯田市役所で、ISO14001、2004年規格改正への対応についての相談会を行いました。参加者は10事業所13人。研究会加入事業所のうちアースグリーンマネジメント、トーエネック、市役所は既に対応済みです。他の事業所は6月から来年の初めにかけての審査を迎え、マニュアルの改正作業をすすめています。改正作業に伴う実務者としての悩みの交換が今回の目的です。具体的に論議された事項は以下の通りです。適用範囲の決め方、法の順守・評価の仕方、環境側面の抽出・評価方法、目的・目標の設定方法、外部コミュニケーションのあり方、教育訓練の評価方法等々。社内ではなかなかできない相談も、異なる業種でありながら、同じ研究会のメンバーであることから議論ができる。そんなところに研究会の意義を改めて感じる事ができました。



## ぐるみで取り組む地球温暖化防止活動にむけて ~事務局会議開催

規格改正相談会に引き続き、事務局会議が行われ、当面の活動計画について話し合いました。京都議定書の批准に伴い、二酸化炭素の6%削減が各企業にも求められます。そのためのシナリオを各事業所が作成するための情報交換を進めることとなりました。またこの研究会の活動としてどのようなことができるのか、意見交換を行いました。ノーマイカー通勤の一斉実施、地域内での排出権取引等の具体的な提案がありました。併せて飯田市が計画している「事業所の森林づくり事業」も紹介されました。これは、荒れている里山を、事業所が仕事や、福利厚生活動の一環で保全活動に関わることでその再生に貢献しようという事業です。ぐるみで取り組む地球温暖化活動を具体的に進めることも、この会の大事な目的です。何かひとつでも具体的な活動につながる事が期待されます。

研究会の取り組みとして環境産業公園(株)オムロン新工場の事業所見学会も行うことになりました。日程は5月17日(火)13:30~17:00で、実務者会議も併せて実施します。

## 街中でやぎと暮らす？ 市橋恵美さんの消費者生活

「燃えるごみは出さないようにしている。残飯はヤギや犬、チャボが食べてくれるし、どんな紙もゴミ箱に捨てずに袋にまとめて資源ごみにしているのよ」。上郷の閑静な住宅地にある一軒家、市橋恵美さん宅にはヤギ、チャボ、犬も同居しています。動物たちの糞は家庭菜園の堆肥、牛乳や調味料もリユースのできるビンを使用しています。食糧が広域的に流通することでエネルギーを消費するフードマイレージのことを考えて、地産地消にもこだわり、自宅を会場に仲間と味噌造りなども進めています。「一人ひとりの市民が消費者としての声を上げることで、企業がその声に応え、行政がこの動きを後押しする、そんな動きをもっと広げたい」。こんな消費者の動きと研究会の活動の結びつきも今後の課題ではないでしょうか。



\*\*\*\*\*  
手順書より手順

「手順書(文書)より手順、いざというときに一人ひとりが適切な対応を行えることが大事」。誰でも初めは何もわからないところから始まるもの。とはいえ環境問題は広く深いテーマであり、永遠に学んでも学び足りることはありません。途方に暮れる中、4/26、27にかけてLMJ(ISO審査員の研修機関)が主催する内部監査員養成講座に参加する機会に恵まれました。食事と就寝時間以外は全て研修というハードな日程でしたが、大変有意義な機会でした。ふと気がつくと、規格のどこの章に当てはまるのか常に考えている自分に驚いているのはこのことです。しかしこの規格が本当に意図するのはISOという手段を通して「環境保全と汚染の予防」という組織の目的を実現すること。そして組織の一人ひとりが自らの必要と意思で行動するしくみをつくることです。冒頭が一番印象に残った講師の言葉です。私たちの次の世代が幸せに暮らすことができる社会を築き上げるために、研究会の事務局の一員として頑張ろう、という気持ちを固めることができた2日間でした。(事務局)

\*\*\*\*\*  
この地域の元気につなげること、そのため人材や技術や資金が地域に環流するだけでなく、それら呼び込むまでに地域の力をつけたいと願います。自然豊かな、そして研究会の挑戦はこれからも続きます。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局  
[p05300@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tamagawa-seiki.co.jp)  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
[ic1267@city.iida.nagano.jp](mailto:ic1267@city.iida.nagano.jp)



## 第4回は9位に 環境首都コンテスト受賞

「日本のフライブルク」をつくらうという目標を掲げて行われている「持続可能な地域社会をつくる日本の環境首都コンテスト」。飯田市は総合9位となりました。5月6日、コンテストを主催する全国11の環境NPO代表の「環境市民」(京都)の牧本育生氏から牧野光朗市長が5月6日に賞状を受け取りました。



人口規模別では昨年の2位から3位、総合でも昨年の5位から9位へとそれぞれ若干の後退という結果です。

第1位	熊本県水俣市
第2位	愛知県新城市
第3位	岐阜県多治見市
第4位	兵庫県尼崎市
第5位	広島県広島市
第6位	熊本県熊本市
第7位	愛知県田原市 神奈川県大和市
第9位	長野県飯田市
第10位	愛知県安城市

牧本氏からは、「飯田市が低下したというよりは他の自治体が急速に環境政策を充実した結果、16年度から取り組む『まほろば事業』に期待している。第4回となる今回まで連続受賞した自治体は少なく、その価値も大きい。飯田市の課題は市民参画の仕組みづくり。」というコメントをいただきました。

## まちづくり基本条例などで 市民参画を進めたい

牧野光朗市長からは「こういう賞をいただくこと自体がまげみとなる。飯田市の今年の成果は交通政策。公共交通利用が20%のびた。『地域ぐるみ環境ISO研究会』は事業所を通じた市民参加として自慢できる取り組み。議会が進めている『まちづくり基本条例』づくりなど、市民参画の取り組みを引き続き進めていきたい。」などの発言がありました。

地方分権の時代は、地域同士のアイデア競争の時代ともいえます。多くの市民参加で多様な知恵が集まる。そうしてつくられた政策であれば多くの市民が共感する。日本のフライブルクに向けた飯田の挑戦は続きます。

## 「おひさまファンド」 全国説明会始まる

市内38カ所の公共施設にもつけた太陽光発電を集中管理する「おひさま進歩エネルギー」。市内100カ所の店舗で省エネのための断熱化や照明改修などを進める「エスコ事業」。それらの事業資金を全国から市民出資で調達する「おひさまファンド」。全国初のこの試みに賛同する有志を募るための説明会が進められています。



募集業務は(株)自然エネルギー市民ファンドが代行。北海道など国内4カ所で市民風車建設を支援した実績があります。

説明会にあわせてNPO法人環境エネルギー政策研究所長の飯田哲也氏の講演会「自然エネルギー最前線～地域・市民による新たな挑戦～」も行われます。参加費は無料です。多くの皆さまのご協力をお待ちしております。

京都会場：5月13日(金)午後7時より  
ぱるるプラザ京都  
大阪会場：5月14日(土)午後2時より  
カタログハウスの店大阪店セミナールーム

詳しくは  
(株)自然エネルギー市民ファンド内  
南信州おひさまファンド係まで  
<http://www.ohisama-energy.co.jp/info/050423-0514.html>

## ツアーオブジャパンに おいでなんしょ

5月18日、自転車の国際レース「ツアーオブジャパン in 南信州」が飯田市で開催されます。このレースは5月15日から22日。



全長は155k。

大阪から東京に至る延べ440kを6つのステージに分けて争うチーム戦です。そのうち第3ステージが、飯田市の下久堅地区を中心とした周回コースで争われます。コース

今回は第9回となるこのレースですが、飯田市での開催は初めてです。自転車レースを通して自転車に親しんでもらいたい、そんな思いもこもった大会です。

[http://www.toj.co.jp/toj9/3rd\\_minamishinshu.html](http://www.toj.co.jp/toj9/3rd_minamishinshu.html)

## 子どもたちの時代へ責任を 松井家のこだわり生活

南に傾斜した大きな片屋根には太陽光発電とパッシブソーラーシステム、井戸水と備え付けた7トンの雨水タンクで生活用水を調達。雨水のオーバーフロー分は池の水に。暖房は入り口におかれた薪ストーブ1基のみ。薪は近所の里山から分けてもらう。斧やチェーンソーの使い方も堂に入ったもの。人工的なエネルギーは電気だけの生活。服の洗濯や食器洗いは石けん使用で排水にも気配り。下久堅南原、林の中の一軒家、松井さん宅の暮らしは思いっきり環境にこだわりを持っています。

松井貴美子さんはお連れ合いと子ども4人の6人家族。「環境は確実に破壊されている。少ない資源を奪い合う世の中だけにはしたくない。環境へのこだわりは自分たちの子ども世代に対する私たちの責任。」



奪い合うのではなく共に生きる暮らし方。そういう暮らし方を広げるための松井さんの活動は多様です。環境問題に限らず、子育て、教育、歴史、平和など、大勢の仲間たちとともに学び行動しています。

人と自然とのかかわりだけでなく、思いを共有する人と人をつなげていくこと。環境問題を考える根っこにしたい考え方ではないでしょうか。「飯田発地球市民への道。一人ひとりの実践を通じた21世紀の暮らし方に学んでいきたい」と思います。

\*\*\*\*\*  
5月7日南信農村日木沢小学校校舎周辺の整備作業に参加しました。地元有志で組織された木沢地区活性化委員会が主催した催しです。東京や名古屋からの参加者を含め、地区内外から40名が参加しました。校舎内外の清掃や、池周辺に樹木を植樹する作業が中心です。終日の作業の後、学校周辺でとれた山菜天ぷらを肴に交流会。中にはお茶の葉の天ぷらも。急傾斜地の農作業、高齢化、後継者不足など厳しい課題は山のようにあります。しかしそこに暮らす人たちの地域に対する愛着や来客に対する気遣い、豊かな自然。汗を流した以上にお土産をたくさんいただきました。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局  
[p05300@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tamagawa-seiki.co.jp)  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
[ic1267@city.iida.nagano.jp](mailto:ic1267@city.iida.nagano.jp)



## 自然に優しい仕事場に オムロン飯田(株) 事業所見学会を 行いました

5月17日、オムロン飯田(株)「テクノフォレスト」の事業所見学会を行いました。参加者は18事業所24人。



工場は2004年5月、竜丘桐林環境公園内に建設。オムロン飯田(株)は、研究会発足時からのメンバー。会社は1961年飯田市第1号の誘致企業として立地。車載用電装部品の開発・設計・生産が現在の主な事業です。

「テクノフォレスト」はその名の通り、工場の周辺、概観、内部の随所に環境配慮の機能が盛り込まれた施設です。周辺が飯田市天然記念物「ギブチョウ」の生息地。光に弱いチョウの習性を考え、太陽光の照り返しを防ぐために燻し瓦の黒を基調とした概観を採用。敷地は周辺の里山と調和した植栽。イエローランプの街灯。窓に貼った防虫フィルム。昆虫の集合を防ぐ工夫です。1.2万㎡の大屋根から雨水を集め、冷却棟やトイレに利用。省エネ省資源、自然エネルギーの活用、生態系への様々な配慮など、こだわり満載の施設です。



同社は1998年10月にISO14001を認証取得。「自然に優しく、人に優しい工場づくり」をめざした環境負荷低減活動にも積極的です。

参加者からは工場の稼働体制、従業員の構成、今後の生産方針、雨水利用の課題など、熱心な意見交換が行われました。

事業所見学会は研究会に参加する大きな特典。異業種交流で互いの仕事の実態や、環境改善活動を知るチャンス。快く受け入れていただいたことに感謝いたします。

## 南信州 いむす 21 初の継続審査に 実務者会議開催

見学会終了後、引き続き実務者会議が行われました。

南信州 いむす 21 は、この地域独自のEMS。これまでに95件(193事業所)が取組宣言。49件が認証登録済みです。このうち(株)アジマ自動車学校、井坪設備工業(有)、エコトピア飯田(株)が初めての継続審査となります。南信州 いむす 21 は2002年に誕生。事業所の継続審査は、南信州 いむすの歩みの上でも大事な通過点。今も新たに取組宣言の準備を進める事業所もあります。参加事業所をグループに分け、新規・継続審査の役割分担を決めました。

## 事業所だよりを ぐるみ通信に

通信は研究会の機関誌です。参加事業所の紹介を掲載することになりました。環境改善の取り組み、会社紹介、地球環境問題や研究会のこれらに対する思い。

どんなことでも結構です。事業所の皆さんの声をお待ちしています。

## クラフトづくりに挑戦 信州環境フェア

7月9日(土)、10日(日)長野市ビックハットで行われる信州環境フェアに、今年も参加します。研究会のブースに関心を寄せてもらうために、間伐材のクラフトづくりに取り組むことになりました。材料調達のために、桐林白井原にある里山で間伐材搬出の作業を行います。竜丘地区財産区議会の協力をいただきました。

## 代表者会議は8月に

今年2月16日に発効した京都議定書。地球温暖化に向けた各事業所がどのようなシナリオを考えているか、情報交換を進めることになりました。また研究会としてどのような活動ができるか検討することになりました。

なお、研究会代表者会議は8月に開催します。日程など詳細は改めて連絡します。



## 多文化時代の環境問題

読者から返信を紹介しします。皆さんからのメッセージ、お待ちしております。

「ぐるみ通信 108」を送って頂き、ありがとうございました。

「ぐるみ」は地域ぐるみ、飯田ぐるみという意味だったんですね。第1号を読んで、自分のサイトだけを守っていたのでは環境問題は解決しないことを十分理解させてもらいました。これからの社会では避けて通れない大きな課題ですね。点から面へこの活動が健全に広がり、そしてより厚みのある三次元的な充実を願っています。

その一つの声を聞いてください。

この地域「ぐるみ」の中に、これからはぜひ「外国籍の人たち」を積極的に取り入れていただきたいとおもいます。飯田には37の国から3,000人を超える人たちが来て居住されています。この数字は、約3%に達し、全国平均の約2倍になっています。

ある人は大きな会社の作業員として働き、税金を納め、子供を育て、自分たちの生活を守っています。当然日本人の家庭と同様、ゴミも排出されます。ご存知のように多くの外国籍の人たちには「言葉の問題」があります。そこに、「外国籍の人たちとゴミ分別の問題」が浮き上がってきています。外国籍の人は、家庭の中にあっても自国での生活習慣を持ち込み、ゴミ集積場では言葉の壁にぶつかってしばしばトラブルにさえることがあると聞いています。

ちょうど今、私達数名のボランティアがINI ネットという多国籍情報誌を発行しようと取り組んでいます。行政、教育、健康、日本語学習、イベントなど色々な情報の中で「ごみ」の問題も大きなテーマの一つです。「ぐるみ通信」からも、是非INI ネットに情報提供をいただければ幸いです。...以下略...

INI ネット・メンバー 櫻野武司  
\*\*\*\*\*

「視察に見る方たちが、驚くのはトイレの多さ。おむつ介助が施設側時におい原因。私たちの施設ではできうるかぎりトイレで用を足していただけるような介助をしています。」龍江の特別養護老人ホーム「ゆいの里」の運営方針。事務長の林積子さんにうかがいました。現場視点、当事者視点で取り組むことの必要。過日のLNU内部監査員養成講座に参加しました。そのときの講師からも同じような話がありました。大事にしたい視点です。

\* 107号旭松食品の岡田宏さんは本店総務部長でした。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機株式会社) 研究会事務局  
[p05300@tanagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tanagawa-seiki.co.jp)  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
[ic1267@city.iida.nagano.jp](mailto:ic1267@city.iida.nagano.jp)



## 研究会事業所 29 に (株)マエダが新たに加

(株)マエダが地域ぐるみ環境 ISO 研究会に新しく仲間入りしました。主な業務は産業廃棄物収集運搬・処分と金属・紙などのリサイクル。2004 年 7 月 28 日に ISO14001 を認証取得。業務自体が環境問題と密接につながっていること、会社のイメージアップが ISO 取得の目的です。取り組みの中心は 5S(整理・整頓・清潔・清掃・躰)。



前田賢二さん(代表取締役社長)は、「最近是一般・産業廃棄物ともに取り扱いが減っている。しかし天然資源の利用に限られれば、資源をリサイクルに求める時代がくるだろう。貴重な資源を大事に使うための意識づくりは、自分だけががんばっても無理。研究会に加入し、地域あげでの意識づくりに関わりたい。」

(株)マエダの加入で事業所数は 29 に。新たな輪が広がりました。

## 緊張感のある内部監査 新城市に行ってきました

5 月 24 日、新城市役所の内部監査に参加しました。対象は事務局。高浜市役所からも 2 人が参加。両市と飯田市は相互内部監査の関係です。新城市は 2004 年の環境首都コンテスト第 2 位。内部監査員の皆さんも規格の要求を熟知し、中身の濃い監査でした。4 月の機構改革で、ISO 担当が環境課から行政管理課に移管。庁内のマネジメントとしての位置づけが明確に。

東海村で行われた環境自治体会議。ISO14001 から自治体版 EMS、LAS-E に変更する自治体も生まれ始めているようです。

飯田市は、研究会事業所の共通の言葉を ISO14001 ととらえ、環境改善の取り組みを地域に広げる方向です。総合的な行政評価との関係。地域展開のすすめ方。EMS のあり方も転換期を迎えているのではないのでしょうか。



## 暖かな声援に感激 ツアーオブジャパン大成功

国際自転車競技連合(UCI)公認のロードレース「第 9 回ツアーオブ・ジャパン」。第 3 戦となる「南信州ステージ」が、5 月 18 日行われました。

飯田市での開催は今回が初めてで、国内外 16 チーム 96 人が参戦。天竜川の東に位置する下久堅、標高差 180m の「山岳コース」を 12 周。全長 155.3 km を走り抜けました。大阪を起点に東京までの 6 ステージを 8 日間で走り抜けるこのレース。その中でも難所といわれています。

選手からは「地元の皆さんからの暖かい声援はツアーの中でも最大。レースの雰囲気は、競技の盛んなヨーロッパ並み」。参加者からは「どこからこんな坂道を上る力が出るの」「下りのスピードは恐ろしいくらい速い」。初めて目の当たりにした自転車ロードレースに親しんでいました。

平日にもかかわらず 3 万 5 千人の人出でにぎわい、経済効果も 1 億円を見込んでいます。



5 月は「自転車月間」。日本のあちこちで自転車に親しもうという取り組みが行われています。

このレースもその一環。「次回第 10 回大会もぜひ飯田で開催を」。牧野光朗飯田市長からのエールにたいし、大会主催者も前向きな談話も。

緑豊かな飯田。それを資源とした取り組み。これからも一層広がることを期待されます。

研究会の一員でもある旭松食品(株)が、飯田から公式スポンサーとして参加しました。



\*写真は通信読者、福島紀雄さん提供

## スロービジネスを飯田で 藤井くんのこだわり

ナマケモノは南米エクアドルに生息する動物です。食事の量は一日に葉 3 枚。木の上で生活し、糞はその木の根元に。木からさずかった栄養を再び木に返す。「非暴力」「環境」「共生」。そんな生き方を実践している NPO ナマケモノ倶楽部。藤井芳広君(26 歳)はこの倶楽部のスタッフです。彼は東京在住。

アップルサンタ。自分たちの余暇を楽しみながら、何か社会の役に立つことをしたい。東京や飯田、20 代の若者たちが中心のグループです。現在メンバーは 50 人ほど。彼らは全員社会人。NPO スタッフ、公務員、会社員など立場はさまざま。農家や地域づくりグループの手伝い、福祉施設との交流。飯田下伊那を拠点に活動しています。

藤井君はアップル・サンタのメンバーとして、何度も飯田を訪れています。5 月の連休、南信濃村日木沢小学校の整備を地域の人たちと一緒に行いました。「ここはとても自然が豊か。受け入れてくれる地域の人たちがとても暖かい。地域の皆さんとふれあいな

から汗を流すのはとても心地よい」。藤井君を始め、参加した若者たちは満足感でいっぱい。

「エクアドルの自然保護。非電化製品の開発。フェアトレード。エコツーリズム。ナマケモノ倶楽部の活動をスロービジネスといっています。これは人と人、人と自然とのつながりをつくっていく仕事。アップルサンタのような活動もビジネスにしていきたいと考えています。」

この地域の自然や人のつながりは貴重な資源。この資源を役立て、関わった人たちが変わっていく。そんな活動が広がることを願っています。

\*ナマケモノ倶楽部の詳細は以下 HP 参照 <http://www.sloth.gr.jp/>

\*\*\*\*\*

5 月 25 日から 27 日にかけて東海村で行われた、第 13 回環境自治体会議に参加してきました。市民の主体的な取り組みと暖かな迎え入れに感激。改めて報告記事は掲載予定です。

第 107 号岡田さんは旭松食品(株)総務部長でした。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精織株) 研究会事務局  
p05300@tanagawa-seiki.co.jp  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
ic1267@city.iida.nagano.jp



## 里山保全のボランティア 研究会が取り組みます

7月2日(土)、午前9時から研究会の取り組みとして里山保全のボランティアを計画しました



\* 心休まる里山の林道

戦後日本は住宅政策の一環で、ひのきや杉などの人工林育成に力を入れました。しかし安い外国材の輸入や後継者不足で大半が手の入らないままに。木の成長とともに木と木の間の空間を確保するための間伐。素性のよい木に育つための枝打ち。こまめな手入れをすることで、森は多様な植生の生まれる余地も生まれます。



\* 放置された間伐材

作業の内容はすでに間伐はしたけれど、放置されたままの間伐材の搬出作業です。7月8日(土)、9日(日)、長野市のピックアップで行われる信州環境フェアのクラフト細工の材料としても一部活用する予定です。希望があれば間伐材を持ち帰り、ストーブの焚きなどに使わせて頂くことも了解頂いています。

場所は竜丘白井原の竜丘地区財産区有林。斜面も比較的緩やかで、かつては子どもたちの薪割りの仕事場だった頃も。竜丘地区財産区議員の皆さんにも全面的にご協力頂きます。

研究者実務者の取り組みですが、どなたでも参加できます。森の中はただいりだけで心がいやされる。そんな効果もあります。参加についての問い合わせは研究会事務局まで。

## 相互内部監査 参加者募集中

7月5日から飯田市役所のISO14001相互内部監査が始まります。

自治体としては日本初の自己適合宣言。第3者認証による透明性、客観性の担保。この一般的な手法以上にISO14001の運用の中味を問う。相互監査はそのための大事な仕組みです。監査をオープンにして5年目。2003年1月23日の自己適合宣言から3回目の相互監査となります。

昨年は「相互監査員」45人、「オブザーバ」58人、103人が組織外から参加。本庁舎内34課(室)、2つに分けたISO事務局。全ての被監査部門で受け入れました。

ISO14001は昨年、1996年の誕生後、初めての規格改正が行われました。それを受けて飯田市は4月1日に環境マニュアルを改正。改正後初めての監査となります。

地域ぐるみ環境ISO研究会でも、各事業所のマニュアル改正に向けて、情報交換や学習会を進めています。

規格改正を受けて、どのような運用が行われているか。ぜひ多くの皆さんの目で評価してください。

昨年行われた事務局監査でも、自治体のマネジメントシステムは、いわゆる「紙ゴミ電気」の枠を越え、環境と政策が結びつくような運用にするべき。そういう指摘を受けています。

「ごみの分別」「室温管理」「不用照明の消灯管理」「両面コピー」など。改正されたマニュアルでは定着事項としてシステムから外されました。監査員も被監査部署も今まで以上に監査内容を深めることが必要となります。

国内独自のEMS「エコアクション21」。自治体版EMS「LAS-E」。地域独自のEMS。裾野の広がりとともにシステム選択の分岐点を迎えています。

改正初年度で、新しいシステムの定着には時間がかかるかも知れません。率直なご発言をお待ちしています。

相互監査の受け入れは、今年も「監査」と「見学」に分けさせていただきます。「資格条件」「参加条件」「参加申し込みの方法」など相互監査についての詳細は、ホームページをご覧ください。

<http://www.city.iida.nagano.jp/kankyo/manage/index.html>

## だれもが皆のために そういう世の中にしたい 座光寺さんの活動から

片岡勝さん。「共生の大地(内橋克人著)」の中で、次代を担う起業家の一人とされています。プレスオルタナティブ発行責任者。彼の元からは新進気鋭の起業家が次々と飛び立っています。WWB/ジャパンも活動領域のひとつ。女性の自立を支援する国際機関の日本支部として、多くの女性起業家を生み出しています。

座光寺良子さんは「おやきと手作り品の店和楽」のオーナー。60歳で起業。今年で13年目を迎えます。50代も半ば、自分や両親、周りの人たちが年老いて行くにつれ元気がなくなる。皆が元気になることを仕事にしようとWWB/ジャパンの起業家セミナーに参加。そこで社会の役に立つことを仕事にしたい、高い志を持つ女性たちと出会いました。

お年寄りが元気になるためのちょっとしたお手伝い。老夫の介護の合間に作った手作り品を店で預かることで励みになる。厨房の仕事に参加することで元気が出る。教えられる人学びたい人を結びつけた仲間づくり。座光寺さんはこの地域のコミュニティ・ビジネスの草分けです。



お年寄りにとどまらず、外国籍市民や障害者のための活動も。第3世界の経済自立を助け、教育によ

って地球市民としての自覚を高めていく。フェアトレードにも取り組んでいます。

「年をとっても現役で居続けたい。世話をされるのではなく、いつまでも皆のための活動を続ける。そんな人が飯田に増えていく。そんな仕事を続けていきたい。」

2005年6月、和楽の火を消してほしくないと願う仲間たちのすすめでNPO法人として再出発します。

\*\*\*\*\*

【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局  
p05300@tanagawa-seiki.co.jp  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
ic1267@city.iida.nagano.jp



## 延べ参加者 2,000 人 大成功の東海村会議

第 13 回環境自治体会議が 5 月 25 日から 27 日にかけて、東海村でおこなわれました。飯田市は昨年の開催地。事務局と受け入れ自治体主導の体制から、企画運営に本格的に市民が関わる転機が飯田会議。東海村も多くの市民が企画運営に参加。ホスピタリティあふれる集会でした。



延べ参加者は 2,000 人、飯田からは昨年の実行委員長の松島信雄さん、福田富広収入役他 7 人が参加。昨年の開催地として、そして「くるみ通信読んでいます」という多くの参加者。環境分野で飯田の知名度は抜群です。会議の企画運営のモデルとなったという意味で、飯田の存在が光った会議でした。

オープニングの初日は「まちづくり」「農業再生」をテーマとした 2 つのシンポジウム。コーディネータも含め 11 人の首長の発言は、熱い首長の思いが強く伝わる刺激的な内容。地方分権を支える自治体の変化を大いに感じることができました。

2 日目は 11 に分かれた分科会。「京都議定書の発効と CO2 削減の取り組み」「暮らしを支える公共交通」「循環型社会に向けた取り組み」「水と緑豊かな自然との共生」「臨界事故を教訓にしたリスクコミュニケーション」「地域農業とコミュニティ再生」「子どもから大人に伝える環境学習」「環境市民立法の今」「環境マネジメント 10 年～何が最も有効か」「“ふつう”の市民をどう巻き込むか～市民参加から環境自治へ」「地域と環境をよくするお金の使い方」などテーマは多様。環境問題の間口の広さを実感。まちづくりの切り口としてもきわめて有効であることを感じる機会でした。

市民と行政の協働の取り組みは思った以上に進んでいます。しかし、事業所と協働した先進的な事例は難しい、という参加者からの発言も。事業所の取り組みに行政も一員として参加する飯田市。地域ぐるみ環境 ISO 研究会の先進性を実感する機会でもありました。

## 異業種の共同が力 リサイクルシステム 研究会の 15 年



「地球環境問題の解決は企業の活動にとって大事な課題。環境問題に取り組むことで、安心して暮らしが地域の中で実現する。生産性の向上と環境を良くする取り組みを両立することはこれからの企業の課題。」6 月 2 日(木)シルクホテルを会場に、講演会「リサイクルシステム研究会の 15 年」が行われました。講師は研究会会長の向山孝一さん。KOA 株式会社の代表取締役社長です。

15 年計画で 9,000 億円から 27,000 億円へ売り上げを 3 倍に。1986 年に長野県テクノハイランド構想がスタート。リサイクルシステム研究会は、この構想を進めるため地域拠点の一つ伊那テクノバレーに属する組織です。参加事業所は製造業、建設業、産業廃棄物処理行など多様な 21 社。ISO 研究会からも旭松食品(株)、オムロン飯田(株)、多摩川精機(株)が参加しています。異業種が集い、環境改善の活動を進めることで多くの成果を生み出しています。

諏訪湖を源流に遠州まで流れる天竜川。支流を含めた 50 カ所を年 1 回、24 時間かけて行う水質検査は 1997 年から実施。家庭系、農業系、産業系それぞれの水質の状態を調査し報告書にまとめています。「これだけの調査を進めているのは世界でもこの研究会だけ。指導的な立場の沖野外輝夫信大理学部長の評価です。

5 月 22 日(日)は「環境ピクニック」。94 事業所 4,300 人が家族とともに天竜川流域のごみ拾い。ボランティアとしてだけでなく、子どもたちの教育や家族の意識変化にも大きな効果が。

2005 年度からは古紙の完全リサイクルに挑戦。従来古紙は、段ボールや雑誌などに再生。今回の取り組みは、古紙を再びオフィス用紙として再生紙使用するという取り組みです。

「これまでの社会は無限の資源を、自分たちの利便のため浪費し、拡大一辺倒で自然を征服しようとしてきた。これからは、有限な資源を、本当の意味での豊かさを実現するために、自然と共生した循環型の社会を築いていく時代。」

異業種が共同し、互いの知恵を出し合って取り組むことの力。国内でも先進的な取り組みと高い志。学ぶことの多い研修会でした。

## 元気が出る本 読んでみませんか

「たかが集落、されど集落」そんな書き出しで紹介された柿野沢農業組合。住む人たちの力を合わせて地域を営んでいる。飯田市の地域マネジメント事業として始まった活動です。地元食材を活かしたお弁当「ひさかた御前」。地元農作物の加工販売。都市の子どもたちの体験教育旅行の受け入れ。多彩で魅力的な活動が続けられています。

これは今年 3 月に発行された「ムトスのまちづくり～飯田市の試み」の一節です。「ムトス」は「～んとす」。広辞苑の最後のことばに由来。一人ひとりが自らの発意で行動している。そういう気持ちがかもっています。

ムトス飯田推進委員会は 1985 年に発足。地域で生き生きと活動を進める個人やグループ。その中からいくつか、毎年ムトス飯田賞として表彰。活動資金の助成などを行っています。



発足 20 年を記念して出版されたのがこの本です。20 年間 43 の受賞団体の活動に向けた思いがまとめられています。

執筆は飯田市職員と南信州新聞社記者あわせて 16 人。取材者側にとってもこの上ない研修の機会。そういう思いが伝わってくる名著です。

一部 1,500 円。編集南信州新聞社出版局。発行ムトス飯田推進委員会。書店でも販売されています。お問い合わせ、お求めは飯田市役所商業課まで。(0265-22-4511)

\*\*\*\*\*  
7 月に行われる飯田市の内部監査。担当として初めての体験。ISO19011「品質及び環境マネジメントシステム監査のための指針」を読んでみました。その中で「この規格の利用者は...他のマネジメントシステム監査を含めた別の監査に適用するために...修正又は拡張することができる...」の文言が。自治体の場合、従来の監査や行政評価などにも応用できるもの、とらえました。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局  
p05300@tamagawa-seiki.co.jp  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
ic1267@city.iida.nagano.jp



## 環境自治体会議 東海村会議に参加して

松島信雄(飯田会議実行委員長)



東海村長(中央)を囲んで。右隣が松島さん

東海村らしい素晴らしい会議に参加させていただき、大変勉強になりました。あらためて東海村の皆さんに心から御礼申し上げます。

他地域での環境自治体会議にはじめて参加し、昨年の飯田会議を客観的に振り返って見直すことも出来ました。

ここに東海村会議に出席して、感じたことを少し記してみたいと思います。

### 東海村の印象

駅を降りると、歓迎のプラカードを持った皆さんが出迎えてくださり、送迎バスのほかに「エコリン」の愛称がついた自転車まで用意されていました。会場の受付ではリサイクル製品である手作りのマイバックに入れた資料が渡され、食券もカレンダーの裏紙が使われていたりして、随所に環境への配慮が伺われました。



エコリン駐輪場

朝、エコリンで街を回って見ると、飯田とは違い平坦で、道も広く快適でした。感心したことは、とても緑の多いことです。東西の通りには「原電通り」「原研通り」「動燃通り」といった名がつけられているのにはちょっとビックリしました。南北の通りには「かえで通り」「もみじ通り」「はなみずき通り」「いちよう通り」と街路樹の名がつけられておりホッとしました。環境と科学技術が融和した村であることを実感しました。

## 第1日目 全体会議から

村上村長から、「1999年の東海村の原子力事故がきっかけとなり、水俣市の環境自治体会議に初めて出席し、経済主義ではない志を持った別世界があることを知り、以来、環境を基本にしたまちづくりをスタートさせた」とのお話を聞き感銘を受けました。

実行委員長他4名の実行委員の皆さんからは、環境への熱い想いと活動事例が語られ、市民参加の会議であることを印象付けられました。

パネルディスカッションでは、第1部「元気な自治体集合」で、司会を含め6人の首長さんから各自治体政策について紹介されました。環境というテーマから枠を広げ、地域の抱える課題や、自立化についての取り組みは、大変参考になりました。合併問題やローカル・マニフェスト推進、スロータウン推進などの立場から、熱い想いが語られましたが、まちづくりは各首長さんの理念や熱い情熱と実行力にかかる点が多いことを感じました。



元気な自治体集合

第2部「環境自治体最前線」では、「農でがんばる自治体」と題して、農業という切り口で環境を考えるとらえ方は興味深いものがありました。特に都会でありながら「農業基本条例」まで制定している日野市の取り組みとして、自給率を守る農地を生産緑地としてとらえる農業を遊農体験の場としてとらえる、という点は学ぶべきこととおもいました。



環境自治体最前線

## 第2日目 分科会

11の分科会に分かれて開催されましたが、私は第1分科会に出席しました。会場の村役場も広く立派なものには驚きました。

第1分科会は「京都議定書発効・自治体での実践方法」というテーマで各市町村の事例が発表されました。温暖化防止への取り組みは全国的にまだまだという段階ですが、川口市の市民中心で活動している「エコライフデー」や、高島町の「省エネキャンペーン」など、身近なテーマに楽しく取り組んでいる報告を聞き、どこでも水平展開できそうな貴重な実例を聞くことができました。

午後の原子力科学館の見学では、原子力とその利用について優しく解説していただき、理解が深まりました。夕方の交流会では、地元の皆さんによる特産のサツマイモ料理に舌づみを打ちながら、実行委員や全国の皆さんと交流を持つことが出来ました。

## 第3日目 全体会議

分科会報告は短時間の中で、前日の内容を端的にまとめ、報告していただきました。皆さんの知的レベルの高さにも感心しました。この後、東海村宣言が採択され、「人間存続の尊厳に目を開くときである」との認識の基、新たな決意を誓いました。

村の若者によるミュージカルも素晴らしいエンディングでした。

## 終わりに

京都議定書発効の年に開催された東海村会議は、大変意義深い内容のある会議でした。温暖化防止をはじめとする持続可能な循環型社会の構築は、今や待ったなしの地球全体の課題です。環境自治体会議にも、より多くの市町村が参加し実践することで、その波を世界に広げて行こうではありませんか。



村内に作られた、ピクトープの手作り看板  
\*\*\*\*\*  
【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局  
p05300@tamagawa-seiki.co.jp  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
ic1267@city.iida.nagano.jp



## (株)トーエネック 弊社の環境への取組み 執行役員・飯田支店長 野村圭吾



(株)トーエネックの環境 MS への取組みは ISO 14001 の JQA 登録を平成 12 年に名古屋の一部事業所で翌平成 13 年に本店(名古屋)

で認証されたことに始まります。その後全社 72 事業所へは費用の点も考慮して本店のシステムを水平展開する形で社内認証制度を定め、順次展開いたしました。

弊社の社内認証制度は全社統一のマニュアルに基づき、2 本部・6 支店が各々運用し、外部審査として、JQA 認定主任審査員の資格を保有する関係会社により、年 1 回継続審査を行うものであります。

当飯田支店も平成 14 年 11 月に認定され、3 年間の目的を達成したところです。

16 年度までは電気、紙ゴミ、産廃の再資源化を中心に取組み、平成 17 年度からは、従来の維持活動に加え、環境に有益な側面への取組みに力点を置き、事務用品のグリーン購入、地域美化活動、省エネ機器の普及促進を目標項目に加え、事業活動に密着した取組みを目指しています。

従業員と協力会社を含め全員が地球環境保全への関心をスパイラルアップ出来るよう心こもった活動を続けていきたいとおもっています。

ISO 研究会の皆様のご指導ご鞭撻を賜りたく宜しくお願いいたします。



(株)トーエネックは、配電線・情報通信設備工事、情報提供サービスなどを主な業務としています。本社は名古屋市にあり、従業員数 5,300 人です。飯田支店長の野村さんは、本社が ISO14001 認証取得する際に、中心となった方です。6 月末日を持って定年退職されます。お世話になりました。

## 南信州おひさまファンド 出資目標達成

「環境と経済の好循環のまちモデル事業」。通称「平成のまほろばまちづくり事業」。太陽光の共同発電と、商店街の省エネを進めるエスコ事業。それらを民間主導で行う資金調達のための、南信州おひさまファンド。1,603 口、2 億 150 万円が、目標の 5 月末日を待たずに満了。出資者総数は約 460 人。環境という公益性の高いテーマに対する市民主体の取り組み。その第 1 関門を突破しました。目標達成後も数多くの問い合わせ。環境問題に対する市民意識の高まりを実感しました。

太陽光発電は現在の 2%から、全世帯の 30%への普及が飯田市の目標。共同発電は太陽光活用のシンボルであり、きっかけです。

ファンドを原資に、初期投資ゼロで省エネに取り組む、商店街エスコ事業。そういう省エネ、新エネの取組みが広まるための学習活動。これからは事業の山場です。



おひさまファンドのキャラクターさんぼちゃん

## エスコ事業取組み中

Energy Service COmpany. エスコ(ESCO)の正式名称です。顧客は工場やビル、店舗など。まずエスコ企業が、照明や空調設備を省エネ型に改良することを提案。飯田の場合、市民ファンドなどを財源として工事費用は無償。その代わりにエネルギーコストとして削減できた金額を、エスコ企業と顧客、ファンド投資家で分配するしくみです。契約期間は 10 年。期間経過後のエネルギーコスト削減分は、まるごと顧客のメリットとなります。

エスコ事業は国内でも、大規模工場、公共施設、ビルなどを対象に始まっています。現在の市場規模は 353 億円。上場企業も 2 社誕生している成長段階のビジネスです。

2007 年 3 月までに飯田市内 100 件で取り組むことを目標としています。詳しくはおひさま進歩エネルギー有限会社まで。

<http://www.ohisama-energy.co.jp/>

## 信州環境フェアで お会いしましょう



今年も信州環境フェアが、7 月 9 日(土)、10 日(日)長野市ビックハットで開催されます。今年のテーマは「みんなで止めよう～地球のためにできること～」。46 の

事業所と 33 の公益団体が参加。5 回目となるこの催しに、今年も研究会として参加します。里山の間伐材を使ったクラフトづくりが新しい企画です。研究会参加事業所の多摩川精機、中部電力も参加。飯田市認定環境配慮型製品「ぐりいれんだ」も紹介されます。

\*\*\*\*\*

## 環境と人権はつながっているんだ

ワンガリ・マータイさん。ケニアの女性環境活動家。2004 年ノーベル平和賞受賞。貧しい女性を組織して数百万本の木を植える「グリーンベルト運動」を進めています。(地球白書 2005～2006)冒頭で紹介)

環境と人権は 21 世紀のキーワードといわれます。「衣食足りて礼節を知る」。南信濃村木沢のお年寄りとの話。「戦後食糧難の頃は、朝飯にありつけても次の飯の保障はない。誰もが目の色が違い、食べることしか頭になかったなあ。」

フェアトレードによる第 3 世界の経済的自立支援。まず人として生きるための条件づくり。そこによく他人やまわりを考える余裕が生まれる。経済的な支援活動の上に環境教育を位置づける。あるいは環境改善の活動と経済的自立を結びつける。

環境にかかわるようになって 2 ヶ月。当初環境と人権はそれぞれに大事と考えていました。両者はつながった問題ということが見えてきました。

足元の飯田でも同じ。困っている人を思いやることが環境改善にもつながる。そんな視点で取り組んでいきたい、と思い新たにしました。



【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

[p05300@tanagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tanagawa-seiki.co.jp)

木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局

[ic1267@city.iida.nagano.jp](mailto:ic1267@city.iida.nagano.jp)



## 南信州いむす 21 が 環境白書で 紹介されました

平成 17 年度政府発行環境白書に、飯田市の ISO 自己適合宣言と、南信州いむす 21 の取り組みが取り上げられました。



白書のうち、第 2 章「社会に広がる環境の国づくり」の文中、地域から進める環境改善の取り組みの先進例として紹介されています。

テーマは「環境 ISO 自己適合宣言と地域への取組」。地域ぐるみ環境 ISO 研究会が独自に考案した EMS 南信州いむす 21、南信州いむす 21 を通じた地域に広がる環境改善活動。「自己適合宣言」型の環境マネジメントシステムへの移行。システムの透明性、客観性及び説明責任を確保するための、相互内部監査。そんな内容が紹介されています。

これまでも環境分野で、研究会の取り組みは高く評価されてきました。環境白書で取り上げられたことも、研究会の取り組みの成果といえます。一方研究会の活動が注目されていることは、これからの活動の中心が問われていることでもあります。白書で取り上げられたことを契機に、研究会の取り組みが一層レベルアップしていくことも期待されます。

## 南信州いむす 21 (株)スヤマ、 (株)コクサイエレクトロニクスが 新たに取り組み宣言

南信州いむす 21、新たに 2 社が取り組み宣言を行いました。

(株)スヤマは 6 月 16 日に取り組み宣言。主な業務はリード線やハーネスの加工。製造過程の不要物のリサイクルや CO2 削減が主な環境改善の取り組みです。河川浄化のシンボルとして、光ファイバー製のホタルを開発したことで話題の会社です。

(株)コクサイエレクトロニクス飯田営業所は 6 月 24 日に宣言。主な業務は電子部品の販売。同営業所はコクサイグループに所属。グループ 11 社へ EMS の取り組みが広がることが期待されます。

## 南信州いむす 21 8 社が一斉に 取り組み宣言

飯田市環境衛生事業組合。飯田市の一般廃棄物の収集運搬を受託している事業所です。6 月 23 日(木)、組合加入の 8 社が一斉に取り組み宣言を行いました。当日、各事業所代表者が事業委託担当、水道環境部長の元へ報告に。

「私たちは廃棄物の収集運搬という、環境問題に直結した仕事をしている。南信州いむす 21 に取り組むことで、地球環境問題に何かの形で貢献したい」。組合長の相津勝人さんの発言です。代表者による学習会。従業員合同の学習会。これまで共同で準備を進めてきました。

「宣言は活動の出発。認証取得にむけたこれからの活動に期待しています」。藤本水道環境部長のコメントです。



準備のための学習会などで、家庭でも節約に努めるなど、従業員の意識が変わってきたそうです。

取り組み宣言を行った 8 社は以下の通りです。

飯田クリーン有有限会社。五十川商店。有有限会社竹原運送店。有有限会社飯田美掃。片桐清掃事業所。有有限会社カメヤマ。福岡清掃事業所。宮口屋事業所。(順不同)

2005 年 6 月 30 日現在、南信州いむす 21 取り組み宣言は 99 件 197 事業所となりました。



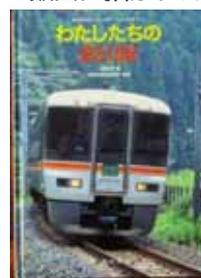
環境課入り口の水槽で育てているメダカが卵を産みました。実物を見るのは皆初めてです。機会あればぜひ観察においでください。

## わたしたちの飯田線が 出版されました

川村カネト。アイヌの測量技師。1937 年に全線開通した JR 飯田線の前身、三信鉄道測量の中心人物。

飯田線には全長 195.7 km に 138 のトンネルがあります。豊川鉄道、鳳来寺鉄道、伊那電気鉄道が合併して現在の飯田線に。その中でも三信鉄道はトンネルと鉄橋の総距離が 37 km。全長 67 km の 52% に及びます。

「人間は金で働くものではなく、みんなのためになることをやるべきだ。アイヌゆえにいじめられることはあったが、それも試練だという先祖の教えを守った」。アイヌ出身として差別されてもくじけずに、険しい道のりを測量し続けたカネト。1960 年、飯田に招かれたときの言葉です。



そんな飯田線の歴史や前史。周辺の自然や文化。飯田線の乗り方楽しみ方が一冊の本の中につまっています。

鉄道、バスという公共交通機関。

自動車普及、人びとの行動範囲が広がるほど利用者は減少しています。深刻な地球環境問題。京都議定書の発効。CO2 削減の有効な方策として公共交通機関が見直され始めています。「わたしたちの飯田線(ぎょうせい)」。飯田市歴史研究所、ジュニア・ライブラリーとして刊行。一部 1,200 円、一般書店で販売されています。

本を片手に飯田線の旅をしてみませんか。  
\*\*\*\*\*

「人に合ったおむつを提供することで、環境改善につながります」。特別養護老人ホームの職員の話です。お年寄り一人ひとりの排尿の量、頻度は異なります。紙おむつには 50cc、100cc、150cc の 3 種類が。できるならば必ず一人ひとりの排尿の状況を調べる。そしてより容量の少ないおむつで、排尿のたびにタイミング良く交換する。お年寄りにとっても快適で、ゴミとしてのおむつも減っていく。そんな意味でした。やはり環境改善は、現場一人ひとりの行動に結びつく。そんな取り組みに広がることで実効が上がるもの。思いもよらぬ勉強になりました。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局  
[p05300@tanagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tanagawa-seiki.co.jp)  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
[ic1267@city.iida.nagano.jp](mailto:ic1267@city.iida.nagano.jp)



## 「一日一善」 積み重ねが力に

信南サービス株式会社  
取締役総務部長 中島 雄介

「継続は力なり」とは人口に膾炙する言葉ですが実践するのは難しいことです。

当社も 2003 年 6 月に「南信州 いむす 21」の取得を受け環境に取り組む活動を続けて参りましたが、初年度は多くの実施しなければならない項目があり、その結果、水道光熱費などの削減が目に見えて表れました。ただ時間が経つにつれて短期で成果が表れる施策が難しくなり、そうなるに参加している社員のモチベーションも下がり環境に対する関心も薄くなりがちになります。

そうした負の循環を断ち切り環境への関心を高めるために当社では「1日1善」を経営方針に掲げています。これは環境に限ったことではありませんが「1日に1つは改善をしよう」「1日に1つは良い改善提案をだそう」といった趣旨です。そしてどうしても改善提案が浮かばないような時は、ゴミを1個捨てるなど環境によいことを些細なことでも良いのでおこないましょと進めています。「一日一善」を各人が記録に残し、管理者がコメントをすることによりモチベーションのアップを計り、改善意識を高めようとしています。歩みは遅くとも一歩一歩環境への意識を高めていきたいと活動を進めています。

信南サービスは、長野県駒ヶ根市と岐阜県関市で、高速道路のサービスエリア(SA)を運営しています。各サービスエリア



では、「環境改善事例シート」を作成し、改善事例をファイルに積み上げることで、従業員一人ひとりの継続的な改善意識を維持し高める活動を進めています。

## 環境立県をめざす鳥取で 牧野市長が事例発表 EMSと新エネがテーマ

6月18日鳥取県民会館で、環境先進自治体によるパネルディスカッションが行われました。テーマは「住民との協働を推進する環境施策」。



飯田市から牧野光朗市長がパネラーとして招かれました。地域独自のEMS南信州 いむす 21を通して進める面への広がり。太陽光発電の普及や木質バイオマスの活用を図る新エネ省エネ地域計画。市役所のISO14001自己適合宣言と相互内部監査。環境問題に対する飯田市取り組みなどを報告しました。

2004年6月、「アジア・太平洋環境会議(エコアジア 2004)」が鳥取県で開催されました。この会議から県内各地で環境改善の取り組みが広まりました。市民や行政の取り組みをつなげ、環境を重視した地域づくりを広げていく。「とっとり環境ネットワーク」の設立を記念した、2日間のイベントの一環です。

環境首都コンテスト第1位、熊本県水俣市の江口隆一市長。生ごみの分別と堆肥化を進める、山形県長井市の目黒栄樹市長。レジ袋税やマイバック持参運動で知られる、東京都杉並区の山田宏市長。木質バイオなど、岩手型ペレットストーブの普及を進める、岩手県の千葉弘環境生活部長。環境先進自治体から招かれたパネラー。話し合いは片山義博鳥取県知事をコーディネーターとして進められました。

「環境改善活動は、市民、事業者、行政のパートナーシップにより、効果的に推進される。これからは環境活動と地域経済がリンクして、地域資源の活用や新たな環境産業の創造により、地域の活性化を図ることが大切」。牧野市長の発表主旨です。

京都議定書の発効。地球的課題としての待ったなしの現状。各地で先進的な事例が動き出しています。環境先進地として認められた飯田市。とどまることのない継続的改善が課題です。

## ガイドブックを片手に 飯田を歩きませんか

1947年戦後間もない頃。飯田市は中心市街地の約8割を焼く大火に見舞われました。

古くからの城下町。流通の拠点、手工業や商業の発展。諏訪大社の流れをくむ7年に一度のお練りまつりに象徴される文化性豊かな地。多くの証が消失してしまいました。

「飯田美しき町 山ちかく水にのぞみ 空明るく風にほやかなる町 飯田 静かなる町 人みな言葉やわらかに 物音ちまたにたたく 肅然として古城の如く丘にたつ町」戦時中、飯田に疎開した作家、岸田国土の詩です。

古き良き飯田。そして飯田の繁栄の中心となった飯田城。それらの歴史、文化、人物などを広くまとめた資料。「飯田城ガイドブック～飯田城とその城下町を探ろう」が飯田市美術博物館から刊行されました。



小学生でも活用できる言葉づかい。本を片手に散策出来るモデルコースや地図も掲載されています。

一部1,200円。お申し込み、お問い合わせは飯

田市美術博物館へ。  
<http://www.iida-museum.org>

\*\*\*\*\*

7月5日から、飯田市役所の相互内部監査がはじまりました。今日現在で137人の「監査員」と「オブザーバ」を受け入れています。

児童課の監査にオブザーバとして参加した助役の一言。「前職場でも監査経験がある。内部監査はともすると馴れ合いの危険がある。しかし本日の監査は、外部からの監査員も立ち会うことで、緊張感を持って行われている。環境マネジメントシステムがしっかりと運用されていることを実感した」。

ISO推進係は内部監査の調整役兼内部監査員。サイト外から転入して1年数ヶ月。被監査経験も初めて。いくつかの内部監査にオブザーバとして立ち会わせていただきながらの手探り状態。環境内部監査員の研修は受けたもののそれは机上のもの、助役の一言に励まされながらも、改めて気を引き締めて内部監査に臨もうと気持ちを新たにしました。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局  
[p05300@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tamagawa-seiki.co.jp)  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
[ic1267@city.iida.nagano.jp](mailto:ic1267@city.iida.nagano.jp)



## 里山作業、無事終了 山は病んでいる！？

7月2日(土)竜丘白井原、竜丘財産区の区有林で間伐材の搬出作業を行いました。長野市ビックハットで行われる信州環境フェア。研究会ブースで行うクラフト細工の材料とするためです。財産区の皆さんの好意で間伐体験も。初めて立木を切ったと感激するメンバーもいました。



信州は緑豊かな地といわれます。実際周囲の山々は深い緑がおおい茂っています。しかし大半の森は、中に分け入ってみると細長い針葉樹が密度濃く林立し、昼でも薄暗い状態です。

「2割間伐から3割間伐へと間伐の方法がかわってきた。それは出来るだけ森から空が見える状態を作ること。針葉樹の間に広葉樹やその他の植物が茂る多様性のある場所にする。そうしないと針葉樹自身も根が育たず、山の崩壊などの災害にも結びついていく。動物たちも果樹や野菜などを荒らさず山の中で暮らすことが出来る」。財産区の皆さんの話。単なる作業に終わらずに、改めて環境問題を考える機会にもなりました。

飯田市では現在、「企業の森づくり事業」が動き出しています。これは企業の力や資本で森に手を入れ、森林を保全してこうという事業です。コストの上では輸入材が圧倒的に有利。国土を守る、理念の上での共感が必要です。

竜丘財産区では白井原の里山を開放し、パン焼きの釜などをつくって森に親しむ場所づくりを進めています。事業所や家族、知人同士で、まずは山に親しむことから始めてみませんか。

竜丘財産区の連絡先

0265-26-9303

(飯田市役所竜丘支所内)

## 親子でにぎわいました 環境フェアは大盛況

7月9日(土)、10日(日)長野市ビックハットで「信州環境フェア」が開催されました。入場者は昨年より3,000人多い18,000人。

地域ぐるみ環境 ISO 研究会では、前の週に里山から切り出した間伐材を持ち込み、ブースの中にクラフトづくりのコーナーを設けました。

間伐材を台座とし、枝を木に見立て、クルミ・ドングリ・木の皮で作った鳥をとまらせる。自動車、カブトムシ、せみ、うさぎ、これは何？

発想豊かな子どもたちの作品が次々と生み出されます。子どもよりも熱中するお父さんやお母さん。生け花の心得のありそうな年配の女性の芸術的作品。パチンコダイエーのパチンコ台、平和時計のエコ虫君なども大人気。2日間、人の流れの途絶えることのない人気ブースとなりました。



環境フェアへの参加者は、環境問題に強い関心を寄せる人たちばかりではありません。展示のみのブースは人がほとんど寄りつきません。

里山での間伐材の搬出と、切り出し作業。準備と片づけ。2日間の来場者の世話。共同して汗を流す機会を通して事業所通しのきずなも強まりました。

人の集まりが研究会の活動の紹介につながる。来年は一步進んだしかけを考えていきませんか。



## 監査を機会に情報交換 相互監査もう一つの成果

7月5日から飯田市の相互内部監査が始まっています。内訳は「相互内部監査員」55人、「オブザーバ」81人。特徴は県内外からの自治体参加の多さ。自己適合宣言をめざす。2004年規格改正の対応。主な目的です。

昼食時や夜の交流の意見交換は得るものが大。

多治見市の内部監査員は20代から50代まで幅広く、環境審査員の2日間研修受講が内部監査員の資格。10月の監査に向けて、6月から打合せを始めているそうです。監査は各課の環境に配慮した政策が中心。監査員と被監査課同士で政策の中味を高め合うようなミーティング形式。2004規格改定の趣旨がすでに反映されています。

富士市は現在審査機関による初めての認証に向けて最後の詰めをすすめています。製紙の盛んな富士市は交付税の不交付団体です。製紙工場に林立する煙突を撤廃したい、現市長の強い思いから、環境に対する積極的な取り組みが進められています。ISO14001の認証取得もその取り組みの一環です。

岡崎市は公募委員による内部監査を始めています。飯田市ではHPで公開しているものの、研究会以外の地元からの内部参加はありません。市民参加という意味では一步進んだ取り組みです。ちなみに岡崎市も交付税の不交付団体でした。



相互内部監査は、外からの情報収集のこの上ない機会。改めて相互内部監査の意義を実感しています。

\*\*\*\*\*

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

[p05300@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tamagawa-seiki.co.jp)

木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局

[ic1267@city.iida.nagano.jp](mailto:ic1267@city.iida.nagano.jp)



## 訪れてみたいまちづくり ガーデン4の取り組み

「お客さんが必要を感じるようなしかけをつくりたい。環境・循環がキーワード。常に最新の情報を求めながら新しいことに取り組むことで、人の流れを呼び戻したい」。南信州いむす 21 に取り組む中央通り 4 丁目のガーデン 4。事務局長の長沼秀毅さんのことばです。



7月16日、茨城県から細田武司、今一男両県議が視察に訪れました。環境自治体会議が縁となり、環境問題の飯田市の取り組みに興味を持たれたことがきっかけです。南信州いむす 21 の他に、おひさま共同発電、環境技術開発センターもあわせて視察。

ガーデン4、活動の出発は、空き店舗を利用したエコハウスづくり。PPバント、梱包用の段ボール、割り箸、ペットボトルなどを共同で回収しています。



回収されたものの再利用を目的に、7月、ペットボ

トルをリサイクルしたボールペンが完成。150円で販売中です。Communication Area GARDENS4 のロゴがおしゃれです。地元少年サッカーチームの公式スポンサーとなり GARDENS4 のロゴ入りのユニフォームでプレー、GARDENS4 って何、そんな興味を集めるしかけです。10月1日に飯田市と合併する南信農村とも10年来の交流を続けています。かつて林業で栄えた村の特性と、飲食店の多いガーデンズ4の特徴を結びつけ、使い捨てでない箸の開発も研究中。

環境・循環にとどまらず、お年寄りや親子連れのたまり場づくりにも夢は広がり、訪れてみたいまちづくりへの挑戦は続きます。

## GDPからGNPへ 日本のものづくりを 若者につなぐ

『G(グロス)N(ナショナル)C(ケール:かっこいい)』これからはそういう国をめざしていきたい。7月16日(土)地場産業センターで、シンポジウム「日本のものづくりを若者につなぐ」が開催されました。

冒頭はコーディネーターで国立科学博物館研究班、鈴木一義さんのことばです。20世紀は、欧米式の大量生産、大量消費の時代。人も仕組みに組み込まれ、環境破壊や人間疎外につながった。江戸時代、日本ではものづくりの職人文化が発達。一人ひとりが職人としての技をもつ。技を持つ人たちを増やし、若者たちにもつなげる。そのことが人を育て、日本という国の力を高める。江戸に学び、新しい社会づくりを進めるための一歩。シンポジウムの開催主旨です。

「どうしたら人は幸せになれるか。その方法としてもづくりをとらえたい。大きいことはいいこととし、上意下達の組織が作ってきた『格差社会』ひとにぎりのエリートによって人の生き方がつくられてきた。そういう社会を変えていくことが必要。一人ひとりが自らの責任において自分の人生を全うできる社会に変えていく。そのためには一人ひとりのもづくりの技を持つことが必要」。基調講演、経済産業省ものづくり政策室長の前田泰宏さんのことばです。

事例報告では、研究会メンバーの事業所から宮内嘉彦さん(オムロン飯田)、橋爪寛和さん(夏目光学)、井原正治さん(平和時計製作所)が地域の若者代表として、ものづくりの現場の中で磨かれる自分自身の体験を語ってくれました。



パネルディスカッションは自治体教育者、事業所の立場から示唆に富んだ発言の数々。研究会参加事業所

からは多摩川精機、萩本博幸会長、旭松食品、木下晃一名誉会長、牧野光朗飯田市長が登壇。

新しい時代が到来する予兆を感じることのできる、魅力的な催しでした。パネラーそれぞれの発言要旨については、次回以降の通信で報告させていただきます

## 見つけたよ。わたしの夏はやっぱり

### “いいた人形劇フェスタ”

日本最大の人形劇の祭典、いいた人形劇フェスタ。今年も8月4日(木)から7日(日)まで開催されます。全国からプロアマ学生188劇団が参加。



いいた  
人形劇  
フェスタ

市内全域、320ステージで人形劇が上演されます。

700円のワッペンはフェスタの参加証。まずは見る側、演じる側ともに購入。人形劇というと子どもたちの楽しみ、そういう印象がつきものです。いいた人形劇フェスタに参加すると人形劇に対するイメージが一新します。

今年も国内外から芸術性の高い作品を用意した劇団がたくさん参加します。今年はフランス、ドイツ、クロアチア、アメリカ、韓国、台湾から9劇団が参加。芸術はことばや文化の壁を越えることが実感できます。

夏の家族の楽しみ。すばらしい作品に出会って心と体のリフレッシュ。お誘い合せて飯田の夏を満喫しませんか

詳しくは、いいた人形劇フェスタ実行委員会事務局HPをご参照ください。

<http://www.iida-puppet.com>

\*\*\*\*\*  
109号で紹介したINI(Intercultural News of Iida)発行の「飯田多文化共生ニュース1-1」第2号を送っていただきました。特集のテーマは「ごみ出しのルール」。ポルトガル語、中国語、タイ語、タガログ語4カ国語に翻訳されています。飯田市でも外国語のゴミ・リサイクルカレンダーは作成されています。しかしカレンダーの見方、使い方がわからない。入り口のところでつまづいていることが多いそうです。当事者目線で飯田で暮らすために必要なことを紹介する。「1-1」の編集方針です。心強い市民運動が育ち始めたことに感謝です。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

p05300@tanagawa-seiki.co.jp

木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局

ic1267@city.iida.nagano.jp



## 10 万分の 1 ミリの 世界をめざして 夏目光学の挑戦

取締役専務 夏目慶彦

地域ぐるみ環境 ISO 研究会にお世話になっております。平素は何かとご指導をいただき御礼を申し上げます。会員のみなさまには弊社の紹介と環境への取り組みをお話しましてご挨拶とさせていただきます。

弊社は飯田市鼎に本社工場を構え硝子の精密加工を行っております。多品種工場としてやってきましたので、さまざまな形のレンズの加工が可能とし、色々な分野に使って頂けるように努力してまいりました。主な分野的では半導体製造装置照明系



レンズ、光通信コネクタ用レンズ、医療用内視鏡レンズ、等があります。硝子の精密加工ということで千分の 1 ミリ (1 ミクロン)、1 万分の 1 ミリの加工を行っておりますが、将来の目標は 10 万分の 1 ミリの加工を目指します。ISO については平成 11 年に 9000 (品質) を取得し、平成 14 年に 14000 (環境) シリーズを取得しました。ISO のシステムが少しずつ会社に浸透してきておりますが、環境では最近地球温暖化に会社全体が目をつける傾向にあると思います。

この傾向は飯田市の環境に対する影響が大きいと思います。今年の 4 月にははじめてノーマイカーを実施し、以後毎月の実施とし継続されております。実施前は何かと心配をしましたが、少しずつではありますが社員の理解度が上がってきております。この取り組みは市が率先垂範としていること、研究会のメンバーの中でも実施されておる会員がおられるということが取り組みの支えになっております。さらに産業廃棄物への取組等がありますが、是非ご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

## 南信州いむす 21 3 社に継続登録証交付

(株)アジマ自動車学校、エコトピア飯田(株)、井坪設備工業(有)。7 月 19 日(火)、南信州広域連合長から南信州いむす 21、初の継続登録証が交付されました。



南信州いむす 21 は、地域独自の EMS として 2001 年に地域ぐるみ環境 ISO 研究会が構築。認証登録は南信州広域連合、審査は研究会が行うしくみです。

3 社は 2002 年、最初に登録された事業所。継続登録は南信州いむす 21 の大きな節目です。アジマ自動車学校では教習生への環境問題の啓蒙活動を進めています。修理工場内を整理整頓。事故のない安全な自動車整備に取り組むなど従業員の環境活動にも熱心です。エコトピア飯田は工場内のゼロエミッションを達成。ISO14001 にも挑戦中です。井坪設備工業は地域づくり ISO 研究会の会員。工事で発生した産業廃棄物の分別も適正。従業員への教育活動も熱心です。

## 一層のレベルアップと 広がり期待

「継続登録は大きな節目。環境マネジメントシステムでは継続的な改善活動が求められる。継続審査では新たに関係法令についての周知を追加した。各社の活動の一層のレベルアップ。南信州いむす 21 の一層の広がりを期待している」。牧野光朗南信州広域連合長のことばです。9 月にはダイマル(株)、丸中 中根園が有効期限が満了。継続審査に。アース・グリーン・マネジメントは既に ISO14001 ~ 取得し、卒業となります。

7 月 27 日現在、南信州いむす 21 は取組宣言 198 事業所、認証取得 48 件。一層の取り組みの広がりが期待されます。

## ミスチル も登場 ap bank Fes に おひさま進歩の電気が

a (Artists') p (Power) bank. 2001 年、坂本龍一、グレイ TAKURO の呼びかけで発足。アーティストの力を自然エネルギー普及につなげるための市民バンク。櫻井和寿、小林武史、坂本龍一の 3 人が拠出した資金を、自然エネルギー、省エネルギー、環境に関するさまざまなプロジェクトに融資する非営利活動。環境に関する学習会も進めています。

7 月 16 日から 18 日、「ap bank」としては初めてのコンサート、「ap bank Fes 05」が静岡県掛川市のつま恋で開催されました。井上陽水、ミスチルなど有名なアーティストが多く登場。コンサートは思いっきり環境にこだわり、参加者への記念品もリサイクル品、そして使用電力もクリーン電力。おひさま進歩のエネルギーは、17 日のコンサートで使われました。ボランティアとしてスタッフも参加。様々な分野から環境に対する積極的な取り組みが始まっていることを実感しました。



<http://www.apbank.jp/fes05/report0717.html>

\*\*\*\*\*

「小雪の『ISO取得』うるうる日記(無明舎出版、島田真紀子著)を読みました。秋田市にある社員 6 人の小さな出版社、無明舎。ある日突然社長から ISO 担当を言い渡された著者が悪戦苦闘しながら認証取得に至るまで。極めて実践的でわかりやすい内容。A子のダイエットマネジメントシステム。マネジメントの計画立案から運用、内部監査までの流れをまとめた一冊。意外とシステムの理解に役立ちます。出版社特有の著しい環境側面、大量な返本処理の問題。その対策として、注文を受けた分だけ印刷製本を行う「オンデマンド印刷」という新しい手法の存在を知りました。読み応えのある一冊でした。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局  
[p05300@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tamagawa-seiki.co.jp)  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
[ic1267@city.iida.nagano.jp](mailto:ic1267@city.iida.nagano.jp)



## 研究会 30 事業所に 雨宮印刷が新たに加

「同じ環境マネジメントシステムに取り組む事業所と交流し、社として地球温暖化防止にどのような貢献ができるのか探りたい」。有限会社雨宮印刷専務取締役、雨宮三郎さんのことばです。



花いっぱい社屋前

雨宮印刷は今年6月1日、ISO14001の登録認証を受けました。仕事の中心は製品用のラベル生産。取引先の輸出製品用のラベルも生産しています。国際的な取引のための信用を得る。ISOに取り組む動機の一つです。

活動の中心は5S。職場の環境を良くすることで良い製品も生まれる。事業所一同そんな意識をともに持ち合いながら取り組みを進めています。

年2回会社周辺の河川や道路の清掃も。道路の空き缶拾いは、若い従業員の環境教育としても有効です。



雨水利用のタンクも手作りで設置。工場周辺の緑化や手洗いに使っています。

研究会の現在のメンバーです。多摩川精機(株) 旭松食品(株) 飯田市役所 飯田信用金庫 中部電力(株)長野支店飯田営業所 (株)平和時計製作所 三菱電機(株)中津川製作所飯田工場 オムロン(株)飯田 TDK(株) 八十二銀行飯田支店 井坪設備工業(有) (株)光和 (有)アイエス精工 エコトピア飯田(株) (株)アース・グリーン・マネジメント パチンコダイエーグループ 東日本システム建設(株)飯田支店 盟和産業(株) 化成工業(株) 吉川建設(株) 木下建設(株) (株)原鉄 神稲建設(株) 南信共同アスコン(株) 飯田商工会議所 信南サービス(株) (株)トーエネック飯田支店 夏目光学(株) (株)マエダ、そして 雨宮印刷の加入で30事業所となりました。

## 企業経営者から見た地育力 平和時計製作所 海野社長の講演から



「海外に進出せず国内で生き残る。そのためには一人ひとりが技能を持つようないしなかけが必要。大量生産ではなく、手仕事で時間をかけてブランド品をつくる。そのための人づくりを大事にしている」。7月21日(木)「企業経営者から見た地育力のあり方と期待」をテーマに講演会が行われました。研究会メンバー、(株)平和時計製作所、代表取締役社長海野幹夫さんが講師です。

「海外に進出せず国内で生き残る。そのためには一人ひとりが技能を持つようないしなかけが必要。大量生産ではなく、手仕事で時間をかけてブランド品をつくる。そのための人づくりを大事にしている」。7月21日(木)「企業経営者から見た地育力のあり方と期待」をテーマに講演会が行われました。研究会メンバー、(株)平和時計製作所、代表取締役社長海野幹夫さんが講師です。

「時計マイスター」。従業員一人ひとりが自らの技能を磨くために独自に設けた資格です。会社にはマイスターB、マイスターAがそれぞれ5人、スーパーマイスターが1人登録されています。スーパーマイスターは厚生労働省が定める現代の名工にも登録申請中です。

人づくりのための4つのしくみ。やるべきことを明確にするための従業員一人ひとりの仕事を中心とした生涯設計=「個人ロードマップ」。評価のしくみ=ビジネスライセンス制度。報いるしくみ それらの活動を支える「時計学校」。時計学校は勤労時間外、マイスターを講師に行われます。

「勤労体験の中学生たちがこの会社に入りたい、といってくれたことに感動。子どもの頃から働くことの意味を感じる機会は大切。自治体は、勤労体験を通してそれぞれの企業を知ってもらうような受け入れ/育成のためのセンターを設けたらどうか」。

自分の未来に夢を持たない子どもたち。社会の中で何かの役にたとうとする担い手意識が育ちにくい現代。あらゆる分野から子育てに向けての発信が求められています。事業所地育力、地域の未来の支え手づくりの一翼として、大いに期待されます。

自分の未来に夢を持たない子どもたち。社会の中で何かの役にたとうとする担い手意識が育ちにくい現代。あらゆる分野から子育てに向けての発信が求められています。事業所地育力、地域の未来の支え手づくりの一翼として、大いに期待されます。

自分の未来に夢を持たない子どもたち。社会の中で何かの役にたとうとする担い手意識が育ちにくい現代。あらゆる分野から子育てに向けての発信が求められています。事業所地育力、地域の未来の支え手づくりの一翼として、大いに期待されます。

## いいだ人形劇フェスタで リサイクルの取り組み

8月4日(木)から7日(日)にかけて日本最大の人形劇の祭典「いいだ人形劇フェスタ2005」が開催されます。フェスター一番のにぎわいは6日(土)中心市街地一帯を歩行者天国にして行われる「ふれあいアップルタウン」。人形劇の上演を初めとした路上パフォーマンス、伝統芸能、ゲーム、産直販売など楽しいことが満載です。

このうち伝馬町1丁目では、リサイクルイタチというイベントが行われます。企画は飯田市環境衛生事業組合に加入する8社。6月23日、南信州 いむす 21 の取組宣言を行った事業所です。今回の取り組みも南信州 いむす 21 の取り組みの一環。イタチが沢最終処分場に持ち込まれる埋め立てごみの中で、まだ利用できそうなものを希望者に使ってもらう。そんな目的です。時間は午後1時から3時まで。思わぬ掘り出し物があるかも…。フェスタの合間にぜひのぞいてみませんか。

\*\*\*\*\*

飯田市役所のISO14001の内部監査が7月28日のシステム監査をもって終了しました。最終的に相互内部監査員54人、オブザーバ84人の参加をいただきました。特にシステム監査には相互内部監査員11人、オブザーバ3人の参加。特訓は県内外から多くの自治体の参加を頂いたことです。

2004年ISO14001の規格改正を受け、2005年4月1日に飯田市環境マネジメントシステムを改正。新規格に応じてどのようにシステムが運営されているか。自己適合宣言を日本で初めて行ったこともあわせ、多くの皆さんから注目されていることを実感。

「マネジメントに文書化された適用範囲、特に人についての記述があいまいではないか」「新規格では、影響を及ぼすことのできる側面が明確にされ、自治体の環境側面は広く市民生活全般に及ぶと解釈できる。環境側面の特定の方法はどのようか」「日本初の自己適合宣言を行った自治体として、その内実を高めるために、環境審査員をどのように育て活用する方針を持っているのか」など、熱気あふれる質問や指摘をたくさんいただきました。緊張感を持って客観性や透明性を担保する。相互内部監査の意義を実感。参加頂いた相互監査員の皆さまに感謝です。監査の詳細は改めてこの通信をお借りして報告させていただきます。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機(株)) 研究会事務局  
[p05300@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tamagawa-seiki.co.jp)  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
[ic1267@city.iida.nagano.jp](mailto:ic1267@city.iida.nagano.jp)